

バーバ・ムクターナンダの時を超えた教え

逆境に耐えられなければ、喜びは遠く離れたままである。

～ バーバ・ムクターナンダ

ガネーシュ・ラージャマニによる説明

精神の旅において、逆境は心の平静への障害とはなりません。それはしばしば、私たちをその場所へと導くまさに足掛かりとなります。バーバ・ムクターナンダは、耐える力がなければ、喜びは手の届かないままである、と教えています。この耐える力とは、受け身的な境地ではありません。それには意識的で内面的な気づきの変化が求められます。『バガヴァッド・ギーター』は、すべての体験は一時的であると強調することで、これを明らかにしています。ⁱ 苦しみや喜びのような二元性の感覚は無常であり、移り変わる季節のように現れては消えていきます。逆境の局面は本質として一時的であると認識することで、私たちはその瞬間の強烈さから距離を置き、内面に注意を向けることができます。この内面の空間では、グルスマラン——グルへの優しく喜びに満ちた想起——が、マインドを静寂さにしっかりと定着させ、痛みの代わりとしてではなく、それを通して発見されたより深い現実として、穏やかな喜びが現われるのを可能にします。心が満足感で満たされていくにつれて、逆境は混乱させる力を失い、私たちは内側の神聖な存在へとより深く引き寄せられます。正しい理解をもって耐えるということは、私たちが探している喜びはいつも内側にあったと気づくことです。それはあらゆる嵐の底に、揺るぎなく、傷一つなく在り、ただ思い出されるのを待っています。それが、私たちが確立するよう努力するべき喜びの体験なのです。



© 2026 SYDA Foundation®. 著作権所有。

ⁱ See, for example, *Shrimad Bhagavad Gita*, 2.14.